

とよなか

(部内資料)

教え子を再び戦場に送るな！ 2017年10月13日発行NO. 589

子ども達の豊かな成長・発達のために皆で力を合わせましょう！



8:33
(今回の受賞は)条約にまだ署名していない日本政府にとって明らかに大きな課題です

ノーベル平和賞に「ICAN」(核兵器廃絶キャンペーン) 日本の被爆者の70年来の役割 核兵器禁止条約採択に大きな役割を果たす！

ノーベル委員会のアンデルセン委員長は、核兵器を条約で禁止しようとするICAN(核兵器廃絶キャンペーン)の「画期的な努力」を授賞理由に挙げました。「私たちは、核兵器使用の危険が、ここしばらくなかったほど高まっている世界に生きています」と述べ、北朝鮮危機に対して核兵器の段階的な廃絶に向けた交渉を開始するよう呼びかけました。

今年7月に122カ国が国連の核兵器禁止条約に賛成し採択しました。しかし核保有9カ国はいずれも賛成せず、また、日本政府もこの条約に賛成していません。

ICANのフィン事務局長は「(今回の受賞は)条約にまだ署名していない日本政府にとって明らかに大きな課題です。」と述べています。

※数百の国が参加するICANは、2007年発足。本部スイス・ジュネーブ。

世界の流れは核兵器廃絶支持！

ノーベル平和賞に国際NGO、ICANNIIが選ばれたことを受けて、功績をたたえる声が世界に広がっています。

☆オーストリアのクルツ外相はツイッターで「ノーベル平和賞の受賞おめでとう。オーストリアはこれからも核兵器のない世界に向けて努力していく」と書き込み。

☆コスタリカ軍縮大使 7月の国連での交渉会議で議長を務めたホワイト軍縮大使は「原爆の投下から72年がたった今、核兵器禁止条約の採択を後押ししたICANの取り組みは国際社会にとって重要であり、その活動を選んだ、ノーベル平和賞の選考委員会を高く評価」。

「この賞は、広島、長崎の被爆者に捧げられるべき賞だ」「核兵器禁止条約は、21世紀の新たな安全保障の枠組みであり、すべての国が尊重すべきだ」と述べ、核兵器禁止条約に反対している日本も含むすべての国が条約に賛成すべきだという考えを強調。

☆国連グテーレス事務総長は「ノーベル平和賞おめでとう。これまで以上に、われわれには核兵器のない世界が必要になる」と述べて受賞を歓迎するとともに、国際社会が一致して核兵器廃絶に取り組むべきだという考えを示しました。

☆国連・軍縮問題担当中満泉事務次長は、北朝鮮による核兵器の脅威が高まり、核のない世界の実現が差し迫った課題となる中で、「ICAN」がノーベル平和賞を受賞したことは、大変

重要な意味がある」

☆オスロ平和研究所「日本の団体の貢献も重要」

「ICANは核廃絶を求める多くの団体が構成されており、日本の団体の貢献もとても重要なものだ」と述べ、広島と長崎の被爆者を含め核兵器の廃絶を訴えてきたすべての人々の貢献に敬意を表しました。

核保有国の主張に追隨する日本政府！

●アメリカ「条約支持しない」
●ロシア「核抑止力は極めて重要」

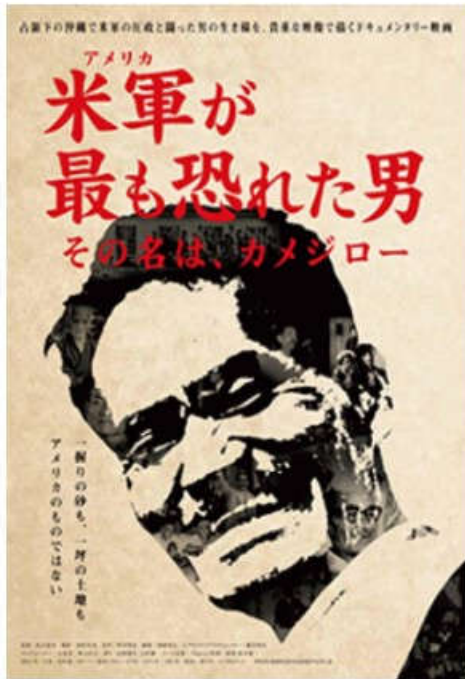
日本政府は核兵器禁止条約に反対しています。今回のノーベル賞では、文学賞にはコメントを出す一方、平和賞にはコメントなしという有様です。

核兵器禁止条約に賛成する日本にしていく必要があります。



国連の場で発言する安倍首相。北朝鮮問題で発言したが、空席が目立つ。

今の沖縄・そして日本を知る 映画



「米軍が最も恐れた男 その名は、カメジロー」

上映館 十三 第七芸術劇場
シアターセブン
10月20日(金)まで
上映時間はHPで確認ください。

●料金 1800円(当日)
互助組合の割引クーポン利用で300円引き

「筑紫哲也 NEWS23」でキャスターを務め、筑紫哲也氏の薫陶を受けた佐古忠彦初監督作品。音楽は作品の主旨に共感した坂本龍一がオリジナル楽曲を書き下ろし。語りは大杉漣。

アメリカ占領下の沖縄で米軍に挑んだ男 瀬長亀次郎のドキュメンタリー映画。なぜ沖縄の人々は声を上げ続けるのか、その原点はカメジローにあった——。第二次大戦後、米軍統治下の沖縄で唯一人“弾圧”を恐れず米軍にNOと叫んだ日本人がいた。「不屈」の精神で立ち向かった沖縄のヒーロー瀬長亀次郎。民衆の前に立ち、演説会を開けば毎回何万人も集め、人々を熱狂させた。彼を恐れた米軍は、様々な策略を巡らす。民衆に支えられて那覇市長、国会議員と立場を変えながら闘い続けた政治家、亀次郎。その知られざる実像と、信念を貫いた抵抗の人生を、稲嶺元沖縄県知事や亀次郎の次女など関係者の証言を通して浮き彫りにしていく。

2016年TBSテレビで放送されたドキュメンタリー番組が非常に高い評価を得、映画化を熱望する声を受けて、追加取材、再編集を行って映画化。沖縄戦を起点に、今につながる基地問題。27年間にわたったアメリカの軍事占領を経て、日本復帰後45年が経っても、なお沖縄に基地が集中するなか、沖縄の人々が声を上げ続ける、その原点……。それは、まさに戦後の沖縄で米軍支配と闘った瀬長亀次郎の生き様にあった。



映画「標的の島 風かたか」 +三上智恵監督講演

10月21日(土) 豊中・すてっぶホール

上映 ①14:00～ ②18:30～
講演 16:30～

●料金 1000円(前売り) 1200円(当日)

「標的の島」とは沖縄のことではありません。私たちが暮らす日本列島のこと。基地があれば標的になる。軍隊は市民の命を守らない—これは沖縄戦で歴史が証明したこと。

平和と民主主義を守る闘いの「最前線」。それに気づいた人々が今、沖縄に集まっています。

《チケット予約・問い合わせ》 toyonaka_festa@yahoo.co.jp